

ビバハウス便り NO. 114 (特別号) 暑中のお見舞い

と近況のご報告～ビバ農業実践塾 (モンガク農場)

で初収穫

青少年自立支援センター ビバハウス責任者  
安達 俊子

「人間界の異常を反映したかのような全国的に異常な天候続きですが、皆様方にはお変りなく、ご健勝の事とお察し申し上げます。

私たちは、何とか一年前半の活動を終了し、先月26日より、8月17日までの夏休みに入らせて頂いています。

これもひとえに、常に変わらぬ皆様のご支援のお陰です。本当にありがとうございました。心よりの感謝を申し上げます。

昨年4月からは、若者達にとってますます就労が困難になっている状況克服のためNPO 法人農業塾「風のがっこう」(札幌・長谷川豊理事長・元酪農学園大学教授)との共同事業による、「ビバ農業実践塾」を開始しました。この事業には、これまで協力関係を持ってきた、「ワーカーズコープ」とのこれまで以上の新協力体制を作り上げる事が出来、ワーカーズよりの2年間の定額助成金が確定したため、農場の給水設備が整備できました。「ビバ農業実践塾」も「ビバハウス便り」でもお知らせしたように、2年次の取り組みを継続しています。長谷川先生を初め、連合北海道の皆さんなど多くの皆様のご協力で新設された100坪のビニールハウスで、はじめてのミニトマトなどの収穫が出来ました。長谷川先生から頂いた有機肥料のお陰で、ミニトマトは特別に美味しいです。初収穫を是非味わってください。皆様にお喜び頂ければ、順次販売の方法も考え、将来は若者達への自立のための資金造りに役立てたいと願っています。』

以上の文章はお世話になった皆さんへ暑中見舞いをかねて出したものです。まさに熱中症にいつなるかも分からない酷暑に負けずに、ビバの若者たちがグループワークで頑張ってくれたお陰で、初収穫が出来ました。お送りした全ての方々から、ビバハウスの夢が一步づつ実現している事に大きな喜びを感じてくださっていることも実感させていただきスタッフ、メンバー共々「ビバ農業実践塾」から始まる次の、またさらに次の夢を膨らませているところです。

この、夏休みも活用し、高崎指導員が、ビバハウスとしては久方ぶりの道外へのアウトリーチに挑戦してくれたこと、京都で卒業生の会を初めて持ったことがあります。詳細は次号で御紹介させていただきます。(2016年8月17日

記)